

外佐田古墳 現地説明会資料

平成 20 年 7 月 19 日 13:30～

三重県埋蔵文化財センター

遺跡名：外佐田古墳そとさたこふん

原因事業名：平成 20 年度県営ふるさと農道 まつした 松下地区

調査主体・担当：三重県教育委員会 三重県埋蔵文化財センターまいぞうぶんかざい

調査協力：地元自治会・伊勢市教育委員会・伊勢農林水産商工環境事務所のうりんすいさんしょうこうかんきょう

所在地：三重県伊勢市二見町松下字外佐田いせしふたみ

調査期間：平成 20 年 6 月 13 日～8 月 11 日（予定）

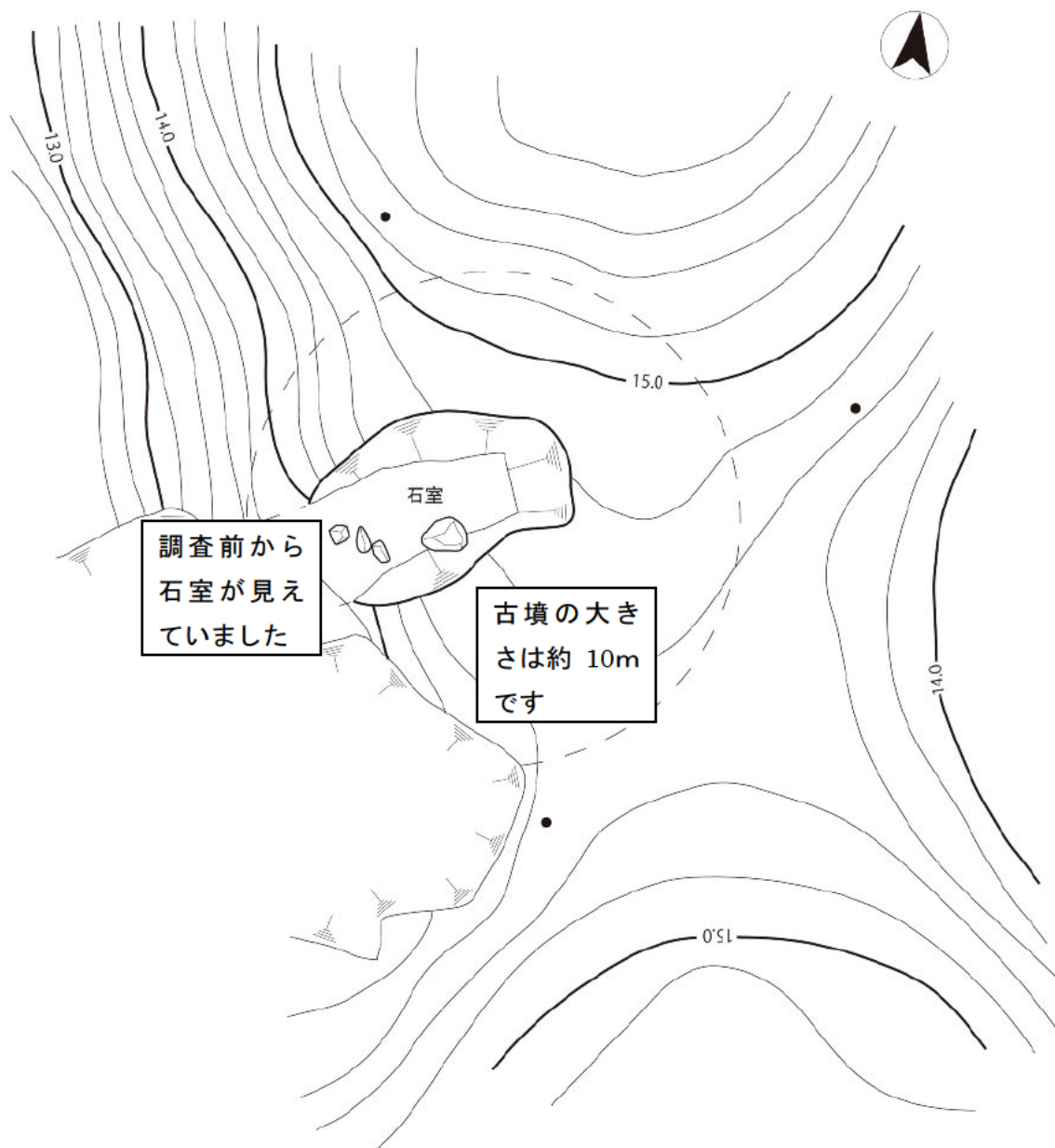
調査面積：約 180 m²



遺跡の場所

はじめに

外佐田古墳は、五十鈴川派川右岸の丘陵上にある横穴式石室（死者を葬るために造った地下式の石の部屋）を持つ古墳です。三重県埋蔵文化財センターでは、この古墳が道路建設により壊されることになりましたので、6月中旬から古墳の記録を残すための発掘調査を行ってきました。このたび、その成果がまとまりましたので、現地説明会を行うことになりました。



発掘調査前の様子

周辺の古墳

伊勢市二見町の^{みつ}三津から^{まつした}松下の丘陵上には50基以上の古墳が集中しています。その多くは古墳時代後期の横穴式石室を持つ古墳です。

外佐田古墳の周辺では、これまでも古墳の発掘調査が何度か行われています。朝熊町の^{あさま}昼河古墳群では、6世紀前半から7世紀後半までの17基の古墳が発掘され、木棺直葬（木の棺を直接地面に埋めた墓）から^{よこあなしきもくしつ}横穴式木室（死者を葬るために造った地下式の木の部屋）・横穴式石室への葬り方の変化が確認されています。^{みぞぐち}溝口の^{ごほうざん}五峰山2号墳でも、6世紀後半の横穴式石室が見つかります。

石室の調査

調査前の石室は、土で埋まっております。奥壁の一番上の石が見えている程度でした。石室の天井をおお覆っていた石は、全く残っていませんでした。天井石かとも思えた写真の右の方に写っている大きな石は、側壁がくずれた状態だったとわかってきました。



調査前の石室のようす



調査途中のようす

石室を掘り下げていくと、幅が広がってきました。「持ち送り」といわれる石の組み方で、積み上げていくに従ってせり出しています。

今回の調査で外佐田古墳は直径約10mの円墳で、横穴式石室が造られていたこと。古墳の周りには、周溝と呼ばれる溝が掘られていたこと。石室は幅1.5m、奥行き4m余りであること。石室の開口部(入り口)は、西に向いていること。見つかった土器から古墳が造られたのは約1,400年前の7世紀頃であることなどがわかりました。



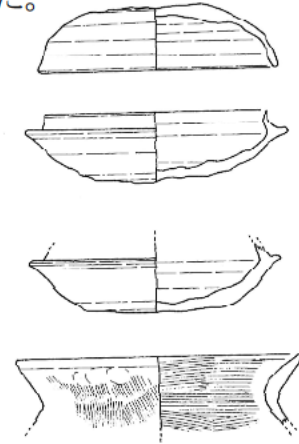
掘り上がりのようす

見つかった土器

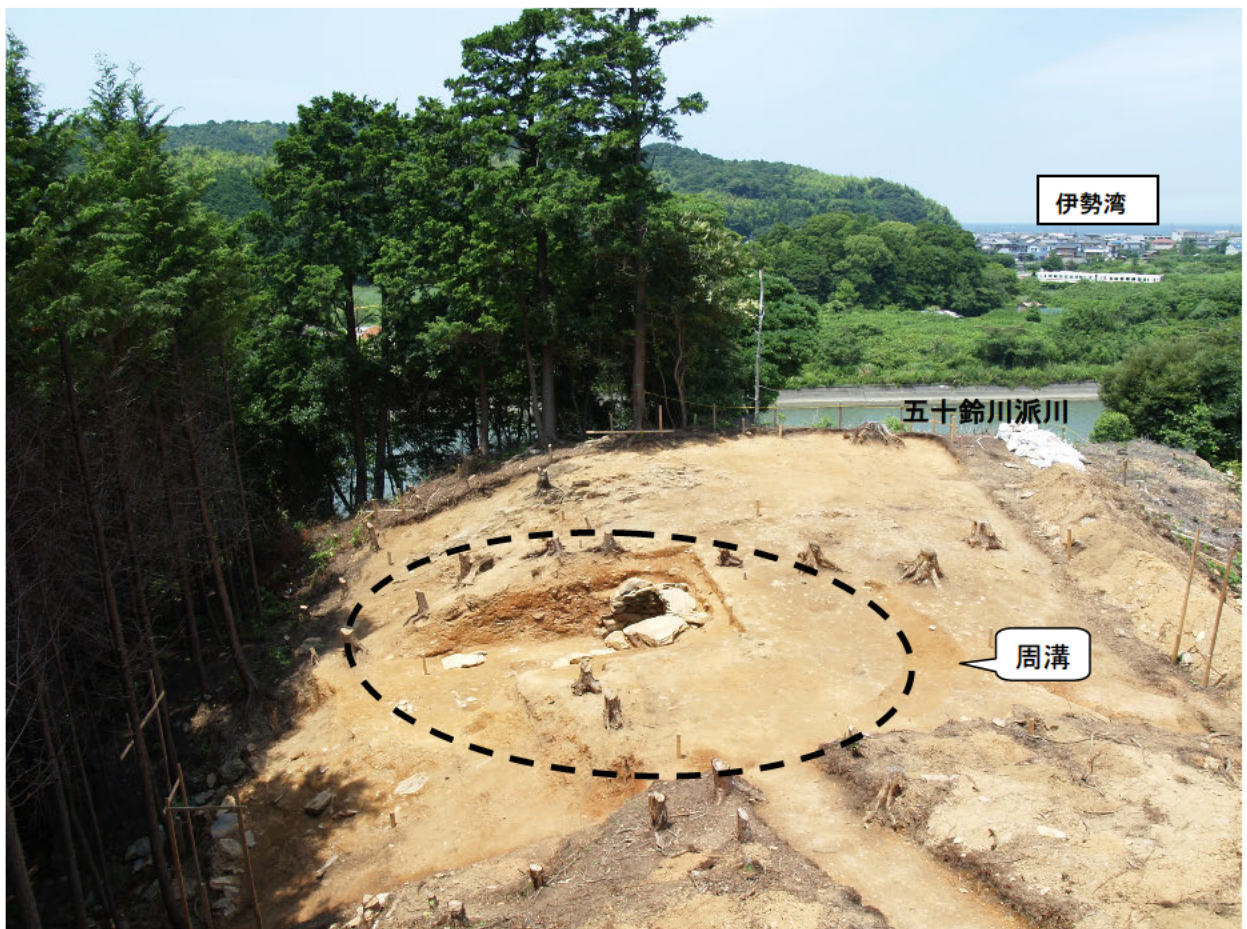
7世紀頃の須恵器が見つかりました。

種類は杯身・杯蓋・横瓶でした。

他には同じ時代の土師器甕の破片などもありました。



見つかった土器の実測図。大きさは実物の四分の一



----- : 古墳の推定ライン

古墳から北を望む